

シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus* 2017年 福井県内で初記録

柳町邦光^{*1}

要旨：2017年5月13日福井県坂井市三国町川崎（36° 10′ N, 136° 15′ E, 海拔約1m）の九頭竜川新保橋右岸上流の河川敷にある水田地帯の砂利農道で、シロハラクイナの成鳥1羽を確認した。本記録は本種の福井県内での初記録である。

キーワード：シロハラクイナ

Kunimitsu YANAGIMACHI^{*1}. 2017. The first record of White-breasted waterhen (*Amaurornis phoenicurus*) in Fukui Prefecture, Japan, in 2017. *Ciconia* (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center)21: 23-24.

One White-breasted waterhen (*Amaurornis phoenicurus*) was observed at the path of a paddy field (36° 10′ N, 136° 15′ E, altitude about 1 m) on the dry river bed of Kuzuryugawa River in Kawasaki, Mikuni Town, Sakai City, Fukui Prefecture, Japan, on May 13, 2017. This is the first record of this species in Fukui Prefecture.

Key words: *Amaurornis phoenicurus*

はじめに

シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus* はツル目クイナ科に属し、インド、中国南部、台湾、アジア南部に分布する。日本では沖縄県で留鳥として生息するが、繁殖が確認されたのは1975年である。近年、鹿児島県や熊本県でも繁殖が確認され、少しずつ生息地を北へ広げつつあり、その動向が注目される鳥の一つである（中村・中村1995）。

2017年5月13日、福井県坂井市三国町川崎の水田で、本種の成鳥1羽を確認した。福井県における鳥類目録「福井の鳥とけものたち」（福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会、1998）には、本種の掲載は無く、福井県内での初記録となったので報告する。

形態

シロハラクイナは、河川、湖沼、湿地、水田等の水辺の藪や草むら、ヨシ原、マングローブ林などの湿地に好んで生息するが、山間部の茂みにも出現する。畑などの比較的開けた場所にも出現し、また水から離れた乾燥地でも見られることがある（中村・中村1995）。

本種は雌雄同色で、顔から腹までの白色部分が目立ち、上面はオリーブ色味のある黒色で、光沢がある。側胸から脇は黒い。下尾筒は茶色。嘴は黄緑色で、上嘴基部は赤い。足は黄緑色。虹彩は赤褐色。幼鳥は上

面が褐色みを帯び、光沢が無い。嘴と足は黄色みが少なく鈍い色。声は夕方から朝にかけて「コワッコワッコワッ」と大きな声で鳴く。警戒心が強く、人間を見ると走って草藪の中に逃げ込む。地上を走る速度は速く、身体を左右にゆすりながら尾を上げて走る（中村・中村1995）。

確認

著者は、2017年5月13日午前10頃、福井県坂井市三国町川崎（36° 10′ N, 136° 15′ E, 海拔約1m）の九頭竜川新保橋右岸上流の河川敷にある水田地帯の砂利農道を野鳥観察のため自動車ですりすましていた際に、前方約10mの位置に水溜りの近くを採餌しながら歩く本種の成鳥1羽を確認した。

本種は、顔から腹にかけて白色である点で形態が類似するバン *Gallinula chloropus* と区別が可能であり、当該個体はこの識別点を確認できたため、シロハラクイナと同定した。著者は本種を確認し、直ちに確認記録としてフロントガラス越しに数枚を撮影した（写真）。さらに鮮明な写真を撮影するために車のドアを開けて慎重にカメラを向けたところ、前方へ走り出し、ヨシ原が茂る河川の方向へ飛び去った。ヨシ原内は河川水の深みがあるため、本種の着地には適さず、この個体は水田の方へ飛去した可能性が高いと考えられたが、周辺の水田地帯や草地では再度見つけることはできなかった。

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: kuni32@fki.fitweb.or.jp

1 柳町邦光 〒918-8046 福井県坂井市運動公園 1-2703

Kunimitsu YANAGIMACHI. Undokoen 1-2703, Fukui-shi, Fukui 918-8046, Japan.

本種が確認された河川敷の水田地帯は、海拔1m未満の湿地帯であるため、通年サギ類の生息が確認され、春秋の渡り時期には、多くのシギ・チドリ類が一時的な中継地として利用していることが多い。本種を確認した当日には、同じ区域の水田でセイタカシギ *Himantopus himantopus* やアオアシシギ *Tringa nebularia* が確認された。また2016年10月1日にヘラサギ *Platalea leucorodia* 1羽が確認された。このように、本種が確認された区域は、渡り鳥の休息地や餌場として

適した環境であると推察され、水田地帯の湿地環境を保全していくことが必要である。

引用文献

- 中村登流・中村雅彦.1995.原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>.61pp.保育社.
福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会(編).1998.福井の鳥とけものたち.222pp.福井県.



写真 シロハラクイナ (2017年5月13日 坂井市三国町川崎 九頭竜川河川敷で撮影).